

令和7年度 公約推進のためのまちづくり懇談会 質疑応答

日 時：令和8年1月18日（日）午後4時～5時35分

場 所：美喜仁桐生文化会館 4階 スカイホール

参加者：一般130名、報道機関2名 合計132名

質問者 A	私は菱町在住であり、先ほどアクセス道路の話が出たと思うが、佐野市長と連携して進めていると話されていた桐生田沼線の拡幅工事や菱町から境野町に抜ける小友線の開設計画について、分かる範囲で結構なので進捗状況を聞かせていただきたい。
市 長	<p>桐生市にはインターチェンジやスマートインターチェンジがないため、アクセス道を強化するため更に要望活動に力を入れていかなければならないことと同時に、災害時における近隣自治体との連携や桐生田沼線の拡幅工事ができることにより、重伝建を通じて中心市街地へ向かう観光ルートの側面でも重要であると考えており、また、産業振興や利便性向上により、いわゆる自然豊かな桐生で生活する住宅都市としての機能も図られると思っている。</p> <p>ご質問いただいた桐生田沼線については、出流原スマートインター・佐野田沼インターまでの距離も短くアクセスが容易なため、非常にメリットがあるが、道幅が4mにも満たない箇所が数ヶ所点在しており、一般車がかろうじてすれ違いができる状況で大型バス等はすれ違うことができないといったこともあるため、佐野市や群馬県・栃木県とも連携しながら早期の事業化に向けて取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>また、小友線については仮称足利スマートインターまでのアクセス向上を目的としているものであるが、こちらも道幅は狭い箇所があり、地権者もいる関係から詳細な日程は未定だが、今年度は道路沿線の状況を把握するための測量を実施したところである。</p> <p>今後も様々な調整が伴うと思が詳細設計や用地交渉等も含め、早期に整備ができるよう取り組んでまいりたいと思っている。</p>

質問者 B	人口減少対策について質問させていただく。 桐生市の人口が10万人を割り込み、少子高齢化が今後も進んでしまうのではないかと心配している。 先ほどの説明において市長が考える人口減少対策は、「女性や若者から選ばれるまち」になることと、「桐生独自の教育環境の確立」ということを話していたと思うが、そのようなことでよいか。 また、この点について、もう少し具体的に説明していただきたい。
-------	--

市 長	<p>人口減少対策は日本全体、また、それぞれの地方に共通する喫緊の課題であり、人口が減るということは、単純に生活関連サービスの縮小や市税収入による財政力が低下してしまい、そのことによって公共サービスの低下や子どもの数の減少による学校の小規模化、生産年齢人口の減少による商工業や農林業の担い手不足、自治会町会・消防団や各種ボランティア団体などの成り手不足などに起因するコミュニティの希薄化など、様々な影響が出てくると思っており、大変重要な問題であるということを認識している。</p> <p>そのような中で、桐生市における人口減少対策を具体的にどのように進めていくのかという点については、「女性・若者から選ばれるまち」を目指すということや、将来の子どもたちがこの桐生を担って桐生のために頑張ってくれるような「桐生独自の学園都市・教育文化都市」をつくることに注力していきたいと思っている。</p> <p>具体的には、まず「女性・若者から選ばれる桐生市」については、今年度は新たに保育園留学を実施し、非常に好評を博しているところであり、また、奨学金の返還免除制度や給食費の無償化も中学から今度は小学校まで対象にすることとしており、女性から注目される取組をしっかりと行なっていきたいと思う。</p> <p>また、若者の部分については、群馬大学の学生を始めとした「学生×桐生つながるプロジェクト」において、学生がどんどん街に出ていき、桐生の人たちと交流を持っていただき、交流人口や関係人口の拡大を図り、1人でも2人でもこの桐生に残っていただき、学生時代を桐生で過ごし、自身が体感した桐生の魅力を広く全国に発信してもらうような取組を行なっていきたいと思う。</p> <p>併せて、「むすびすむ桐生」では、桐生でお店を開きたい、起業したいという方に対するワンストップ相談窓口を充実することにより、桐生独自のものづくりの文化が根付いたまちとなり、そのような方に対して住宅取得応援事業についても付随して支援していきたいと思っている。</p> <p>そしてもう一つの特色ある教育の部分については、世界で活躍できるデジタルクリエイティブ人材育成の拠点である「tsukurun KIRYU」、子どもたちだけで考える仮想のまち職業体験イベント「ミニきりゅう」、群馬大学理工学部の学生が子どもたちに直接理科の授業を教えてくれる「サイエンスドクター事業」、親子で体験する教育プログラム「未来創生塾」、小学生の観光スペシャリストの育成を目指す「ジュニアアンバサダー事業」、英語教育に特化した小規模特認校である「黒保根学園」、「コロンバス市への中学生の海外派遣」、「返還免除型の奨学金制度」、球都桐生プロジェクトにより推進している「スポーツマンシップ精神を持った子どもたちの育成」、そして、昨年4月に開校した日本最大の通信高校「角川ドワンゴ学園のR高校」といった、これらの桐生にしかない独自の教育を有機的に結び付け、しっかりと連携させることによって、今の子どもたちが5年後、10年後、15年後、大人になった時に、このような取組を経ることにより、桐生に対する郷土愛、そして自分のまちは自分たちでつくっていくという自治意識を持った人々であふれるまちになれば、質の高い住民自治が出来上がるだろうということを目指して今後取り組んでいきたいと思っている。</p>
-----	--

質問者 C	<p>昨年の祇園屋台総揃えでは大勢の方に来場いただきありがとうございました。重伝建の関係では、やはり「まちなか交流館」が中心になると思うが、これといって大きな見どころがないため、一番奥の土蔵を上手く活用できないかと考えている。</p> <p>具体的には、かつて桐生に住んでいたことのある坂口安吾を広く知つてもらうため、日本一小さな坂口安吾の記念館のようなものをつくることはできないか。ご家族の方も多少なりとも協力すると言っているため検討していただきたい。</p>
市 長	<p>重伝建地区は日本遺産の一つにもなっており、これから桐生の顔として整備をしていくと同時に文化観光の拠点としていくことを考えている。</p> <p>昨年の 12 月には電線の地中化や車道歩道の石畳調など調和の取れた街並みが形成されたため、その拠点として「まちなか交流館」を中心に重伝建地区の発展のために各種施策に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>「まちなか交流館」の活用方法として、坂口安吾の小さな記念館・博物館的な趣旨だと思うが、今後検討させていただきたいと思う。過日、桐生工業高校の建設科チームが坂口安吾をテーマにした高校生の建築甲子園で優勝したという新聞報道があり、重伝建地区を桐生工業高校の生徒たちが注目して色々な形で取り上げていただいていると非常にありがたいと思っている。</p> <p>また、坂口安吾を通じて、これまで坂口安吾の生誕の地である新潟市、創作活動の重要な時期を過ごした十日町市、そして、終焉の地である桐生市の「新潟・十日町・桐生」の交流も現在進めているところであり、そのようなつながりの中の重伝建地区や織物つながりということも今後の文化観光のキーワードとして非常に大切なことであると考えているため、前向きに検討していきたい。</p>

質問者 D	<p>桐生版のスマートビジネスサタデーの 100 円商店街では、たくさん的人が街中にあふれ、すごく活気があったと思う。このような店もあるのかということで、自分自身もすごく発見があった。また、桐ペイのブースもすごく並んでいて盛り上がっていたと思う。</p> <p>地元の買い物も促すためには良い取組だと思うので、次回もぜひ開催していただきたい。</p>
市 長	<p>スマートビジネスサタデーについては、2010 年にアメリカで年末商戦の時期に地元の小さい商店街で買い物をしようということを奨励する日として設定された取組で、個人商店の活性化とともにお店の知名度を上げて地元のビジネスを支援するために始まったものであり、これを桐生でも実施できないかという考えがきっかけでスタートしたのが「桐生版スマートビジネスサタデー」である。</p> <p>商店連盟の方々の協力をいただき、「100 円商店街 in 桐生」が 2022 年からスター</p>

トし、今年度で4回目の開催となり、大分定着してきたと思う。今回協力していただいた店舗数も90店舗に至っており、今後はこれを更に広げて桐生で商売をしている全ての方々に恩恵が得られるような取組を目指していきたいと思っている。

100円の目玉商品は午前中で完売したり、桐ペイのイベントキャンペーンについても、商店街4ヶ所に拠点を設けていたが、特設ブースには買い物のレシートを持った人たちであふれ長蛇の列が作られていた。一部システム故障でご迷惑おかけしたことについてはお詫びしたいと思うが、非常に好評をいただいている、今後は100円商品だけを買って帰るということではなく、商店の店主や100円商品以外にどのような品物を販売しているのかを知っていただくための取組として、これまでとは異なる試みも必要になってくると思っている。

そのような課題については、商店連盟の方々とまちづくりミーティングなどで意見交換をしているが、今後もしっかりと連携しながら、新たな取組や100円商店街の更なるバージョンアップなども検討しながら進めてまいりたいと思っている。